

2015 四つの国から

元気です Women

笑う職場に福来たる

香川

高松総局
〒760-0017
高松市番町
1-10-21
☎087-861-4350
FAX 862-8496

ホームページ
http://www.yomiuri.co.jp/local/kagawa/

通信部
坂出 0877-46-3994
観音寺0875-23-2867
小豆島0879-62-0871
東讃 0877-894-8004

販売のご用は ☎087-812-6640
広告のご用は ☎087-831-1841
折り込みのご用は ☎087-888-6133
読売旅行は ☎087-834-4421



「少し見ないうちにお兄ちゃんらしくなったね」「また身長が伸びたんよ」
丸亀城(丸亀市)近くにあり小さな社屋。檜田の長机が置かれた会議室に、社員と子供たちの笑い声が響いた。保育所や塾の送り迎えの途中に、社員が子連れで会社に顔を出し、いつもの光景だ。家族みだしよ。社長の谷淵陽子さん(64)が目をつめた。社員7人の人材派遣会社「パワーネット」。メンバー

全員女性の派遣会社

(丸亀)

は全員、女性だ。
6人は育児中で、4人は子供の送迎時間に合わせ、1日5時間半〜7時間の時短勤務で働く。子供の急病で出社できない時は、チームを組む相方がカバー。参観日には、有給休暇を2、3時間使って参加する。
3年前、残業を一切なくした。それでも業績は順調だ。何より社員が生きて働く姿に、谷淵さんは誇りを感じている。

受け入れ工夫輝く力



以前は違った。社員はみなフルタイムで働き、繁忙期に
講座で女性が活躍できる社会の大切さを説く谷淵さん(丸亀市で)

ホームページの刷新や新たな顧客サービスを次々提案してくれた。
「彼女のような人材を生かせる仕組みが、会社を変えるはず」。谷淵さんは、そう直感した。
それから、一人ひとりの業務内容を洗い直し、マニュアルを作って負担を平準化。担当分野ごとに2、3人のチームを組み、カバーし合うことも徹底し、時短や時間単位の休暇など柔軟な勤務体系を取り入れた。
残業時間はみるみる減っていった。昼休みには、育児や家族の話で笑い声が絶えなくなかった。

は、事務所の明かりは夜遅くまでともり続けた。

谷淵さんが県職員をやめて起業したのは、19年前のことだ。パソコンのサポート業務を手始めに、数年後にはITに強い人材を紹介する派遣会社に業態を変更。オフィスへのパソコンの普及に伴い、業績は着々と伸びた。

だが、その間、社員に残業を頼むことがしばしばあった。社内の雰囲気はどんどん暗く、3人が理由も言わずに相次いで辞めた。
「このままではいけない」。焦りが募った。

転機は4年前、市岡奈都美さん(35)の入社だった。当時3歳の長男を育てるシングルマザーで、午後3時半までの時短勤務を望んだ。人手不足から応じた谷淵さんは、仕事に優先順位を付けて時間を有効に使う市岡さんの仕事ぶりに、目を見はった。企画の仕事に強く、会社のホ

女性社員の笑顔が絶えない
パワーネット(丸亀市で)

取り組みは社外にも広がっている。
パワーネットが派遣する人材は、女性を中心だ。宇多津町の中西万里子さん(37)も、その一人。地元の衣料会社で、2013年10月に働き始めた。
それまでの半年間、育児のため時短勤務を希望していたことや、前の職場を辞めて11年のブランクがあったこと、面接で何社も受け入れてくれた今の会社が受け入れてくれたのは、「女性が活躍すれば、会社は元気になる」との谷淵さんの考えに、賛同してくれたからだ。

中西さんは昨年7月、働きぶりを評価され、直接雇用の社員になった。「再び働くことへの不安は大きかった。育児と仕事の両立が、こんなに楽しいなんて」と笑顔を見せる。
谷淵さんは2年前にNPO法人を設立し、女性が働きやすい職場づくりのノウハウを伝える講座を始めた。受講するのは、そうした取り組みの必要性を痛感し始めた経営者らだ。

「受け入れる側のちよっとした工夫で、いろんな境遇の人が力を発揮できる。結局、それが企業や地域を元気にする近道だと思う」。谷淵さんは確信している。
(児玉圭太)

漢方相談

橋本薬局
0120-234-555